第63回自治体学校受講レポート

3　●7月17日コロナ禍から考える子ども・子育て支援を受講して

　　　　　　　　　　　　　　　　　　埼玉県議団事務局　　　北原さゆみ

コロナ禍と子供の問題での講義で、生まれたら四方八方マスク顔という川柳があるという。

コロナ禍の中で、現代の子供たちはマスク生活をしており、コミュニケーション能力が不足している。この子たちの未来にどのようなことが起こるかわからないという。

何かを行うにしてもすべてしてはいけないという否定の中に子供たちがおかれている。

子どもにとって最善の権利とは何か？

子どもには6つの権利がある。生存権　生活権　学習権　遊び・文化権　更生権　自治参加権であるが、　特に現代の子供たちはコロナによって６つの権利すべてが脅かされている。その中の生存権は生きるための命と健康が守られている権利だが、現在はそれが脅かされている。又、学習権は学ぶ権利であるが、学校の休校でしっかりと教育が受けられず、オンライン授業などで、フォローはあるが、対面授業のようにはいかない。遊び権はなかまと遊びを通して人との付き合い方を学び、子どもたちの心を励まし元気にさせていく（遊びは子供のエッセンス）のだが、コロナ禍の中ではそれも難しい。そして自治参加権は自分の気持ちや意見を社会に伝えるために仲間とともに話し合い、社会参画していく権利だが、コロナ禍では自由や権利が奪われてしまっている。

6つの権利を迫害されている現代の子供たち。どのように子どもたちを守り育てていけるのか、子供らしさ、コミュニケーション能力の失われつつある現代社会の中で、子供たちの未来のためにどのように支援をしていけばいいのだろうと深く考えさせられた講義であった。